

拠点名称：美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点

代表機関	東北大学	プロジェクトリーダー	松八重 一代 東北大学 大学院環境科学研究科 教授
幹事自治体	三重県志摩市 宮城県東松島市	幹事機関	東京大学、東京都市大学 リアインホールディングス株式会社、有限会社伊勢志摩冷凍、貴凜庁株式会社、 辻調理師専門学校、株式会社日本旅行、三重県立宇治山田商業高等学校
参画機関	三重大学、鳥羽商船高等専門学校、宮城大学、新潟食料農業大学、千葉大学、よこやま株式会社、株式会社NA、三重県水産研究所、株式会社志摩スペイン村、伊勢志摩リゾートマネジメント株式会社、石川食品株式会社、クリア法律事務所、志摩ネイチャー倶楽部、宮城県仙台市、三重県立水産高等学校、宮城県水産高等学校、宮城県石巻西高等学校、農林中央金庫、フィッシャーマンジャパン、株式会社志摩地中海村、株式会社TBWA/HAKUHODO、三重県立伊勢工業高等学校、日産自動車株式会社、株式会社REMARE、株式会社近鉄リレーリング、日本食文化国際交流協会、有限会社佐藤養殖場、IXホールディングス株式会社、株式会社北三陸ファクトリー、有限会社二軒茶屋餅角屋本店		

プロジェクトの概要

一次産業は激化する気候変動の影響を大きく受けるが、とりわけ海洋生態系の変化は著しい。これまで培われてきた地域の食文化も気候変動への適応が求められる一方で、食は最も保守性の強い文化の一つでもあるため消費者・生産者双方の価値観の転換が重要である。美食地政学という新しい概念を提唱し、気候変動に適応した食のサプライチェーンを実現し、世代を超えた人のつながりを育み、自然に寄り添い豊かに暮らせる地域共創社会の実現をビジョンに掲げ、適正な自然資本の管理の下、地域資源を最大限に活かした食と職を豊かにする社会変革に臨む。これらの実現に向けて、T1.自然資本を適切に保管理・利活用するための知的基盤の構築、T2.気候変動に適応する食を実現するための新たなサプライチェーンの創出、T3.自然と共生した豊かな地域経済実現のためのマーケットエコシステムの醸成、T4.地域グリーンジョブマーケット醸成のための教育コミュニティ形成の4項目をターゲットを定める。ターゲット達成のために、①農林水産資源の適切な管理と環境保全、②栄養塩類の適切な管理・ライフサイクル環境評価、③地理的環境認証・ブランディング、④美食地政学に基づくビジネス・サプライチェーン、⑤消費者・生産者の行動変容、⑥キャリア教育・グリーンジョブコンテンツの創出⑦生物資源量の把握と適正利用に向けた知の導出、⑧地域共創社会を育む空間デザインの8つの研究開発課題を軸に、多様な知を結集して地域産業の活性化を図るとともに、地域の自然資本を活かす新たなグリーンジョブを創出し、それを実践する担い手育成を、産官学民が一体となり取り組む。また、地理的環境認証・ブランディングの仕組みを介して都市部のマーケットと接続することで、生産者・消費者双方の価値観の転換を促し、気候変動に適応したサプライチェーンを実現する。

気候変動に適応した食のサプライチェーンを実現し、世代を超えた人の繋がりを育み、自然に寄り添い豊かに暮らせる地域共創社会の実現



【SDGs】

SDG2

SDG4

SDG8

SDG9

SDG12

SDG14

SDG15

拠点名：美食地政学に基づくグリーンジョスマーケットの醸成共創拠点

美食地政学  
共創研究所

ビジョン：気候変動に適応した食のサプライチェーンを実現し、  
世代を超えた人の繋がりを育み、自然に寄り添い豊かに暮らせる地域共創社会

COI-NEXT  
統括会議

「プロジェクト」の活動範囲

ターゲット

(T-1. 知の創出)

自然資本を適切に  
保全管理・利活用するための  
知的基盤の構築

(T-2. 美食サプライチェーン)

気候変動に適応する食を  
実現するための新たな  
サプライチェーンの創出

(T-3. エコシステムの醸成)

自然と共生した豊かな  
地域経済実現のための  
マーケットエコシステムの醸成

(T-4. グリーンジョス教育)

地域グリーンジョスマーケット  
醸成のための  
教育コミュニティ形成

研究開発課題

研究開発課題 1

農林水産資源の  
適切な管理と  
環境保全

- ・中間目標 1(4年目)  
モニタリング・  
データ共有基盤の構築
- ・中間目標 2(6年目)  
予測モデルの構築
- ・PoC目標 1(7年目)  
持続可能な水産資源  
管理方法の確立
- ・最終目標 (10年目)  
生態系アプローチによる  
沿岸環境管理の実現

研究開発課題 2

栄養塩類の適切な  
管理・ライフサイクル  
環境評価

- ・中間目標 1(4年目)  
地域内栄養塩フローの  
推計
- ・中間目標 2(5年目)  
未利用資源の活用による  
影響把握
- ・PoC目標 1(7年目)  
栄養塩フローの  
適正管理支援モデル構築
- ・最終目標 (10年目)  
自然資本ならびに  
栄養塩フローの  
適正管理を支援する  
事業の創出

研究開発課題 3

地理的環境認証・  
スタンディング

- ・中間目標 1(4年目)  
架橋型の認証制度確立の  
ための評価指標の確立
- ・中間目標 2(6年目)  
持続的な自然資本型で  
気候変動に適応した製品  
ならびに事業の認証
- ・PoC目標 1(7年目)  
新たな認証制度確立の  
ための評価制度の  
展開・試行
- ・最終目標 (10年目)  
新たな認証制度の  
実装と地域内自走

研究開発課題 4

美食地政学に基づく  
ビジネス・  
サプライチェーン

- ・中間目標 1(4年目)  
気候変動に適応した製品  
ならびにサービスの創出
- ・PoC目標 1(7年目)  
美食地政学に基づく  
ビジネスモデルの創出
- ・最終目標 (10年目)  
美食地政学に基づく  
サプライチェーンの確立

研究開発課題 5

消費者・生産者の  
行動変容

- ・中間目標 1(4年目)  
行動変容に導く  
手法の構築
- ・PoC目標 1(6年目)  
消費者・生産者をつなぐ  
プラットフォームの構築
- ・最終目標 (10年目)  
地域ジョスマーケット  
醸成のための価値観の  
転換

研究開発課題 6

キャリア教育・  
グリーンジョス  
コンテンツの創出

- ・中間目標 1(4年目)  
グリーンジョス  
コンテンツの抽出
- ・中間目標 2(5年目)  
共創教育コンテンツの  
拡充
- ・PoC目標 1(6年目)  
共創教育コミュニティ  
形成
- ・最終目標 (10年目)  
共創教育プラットフォームの構築と  
グリーンジョス  
コンテンツの創出

研究開発課題 7

生物資源量の把握と  
適正利用に向けた  
知の導出

- ・中間目標 1(5年目)  
環境変化による生態系の  
現状把握
- ・PoC目標 1(7年目)  
産業の気候変動適応に  
向けた共有データモデル  
の構築
- ・最終目標 (10年目)  
生物資源の適正活用による  
サステナブルなサプライチェーン  
との連動システムの構築

研究開発課題 8

地域共創社会を育む  
空間デザイン

- ・中間目標 1(5年目)  
美食地政学フード  
スペースの概念定義
- ・PoC目標 1(7年目)  
空間デザインを軸とした  
地域共創コミュニティの  
形成
- ・最終目標 (10年目)  
美食地政学に基づく  
フードスペースの創出

**拠点名称：美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点**  
**代表機関：東北大学**  
**プロジェクトリーダー：松八重一代(東北大学大学院環境科学研究科教授)**

研究開発課題1「農林水産資源の適切な管理と環境保全」の目標		年度
中間目標1	モニタリング・データ共有基盤の構築 (ターゲット1)	2026
中間目標2	予測モデルの構築 (ターゲット1)	2028
PoC達成目標1	持続可能な水産資源管理方法の確立 (ターゲット2)	2029
最終目標	生態系アプローチによる沿岸環境管理の実現 (ターゲット1)	2032
研究開発課題2「栄養塩類の適切な管理・ライフサイクル環境評価」の目標		年度
中間目標1	地域内栄養塩フローの推計 (ターゲット1)	2026
中間目標2	未利用資源の活用による影響把握 (ターゲット1)	2027
PoC達成目標1	栄養塩フローの適正管理支援モデル構築 (ターゲット2)	2029
最終目標	自然資本ならびに栄養塩フローの適正管理を支援する事業の創出 (ターゲット2)	2032
研究開発課題3「地理的環境認証・ブランディング」の目標		年度
中間目標1	架橋型の認証制度確立のための評価指標の確立 (ターゲット1)	2026
中間目標2	持続的な自然資本型で気候変動に適応した製品ならびに事業の認証 (ターゲット2)	2028
PoC達成目標1	新たな認証制度確立のための評価制度の展開・試行 (ターゲット3)	2029
最終目標	新たな認証制度の実装と地域内自走 (ターゲット3)	2032
研究開発課題4「美食地政学に基づくビジネス・サプライチェーン」の目標		年度
中間目標1	気候変動に適応した製品ならびにサービスの創出 (ターゲット2)	2026
PoC達成目標1	美食地政学に基づくビジネスモデルの創出 (ターゲット3)	2029
最終目標	美食地政学に基づくサプライチェーンの確立 (ターゲット2)	2032

研究開発課題5「消費者・生産者の行動変容」の目標		年度
中間目標1	行動変容に導く手法の構築（ターゲット3）	2026
PoC達成目標1	消費者-生産者をつなぐプラットフォームの構築（ターゲット3）	2028
最終目標	地域ジョブマーケット醸成のための価値観の転換（ターゲット4）	2032
研究開発課題6「キャリア教育・グリーンジョブコンテンツの創出」の目標		年度
中間目標1	グリーンジョブコンテンツの抽出（ターゲット1）	2026
中間目標2	共創教育コンテンツの拡充（ターゲット4）	2027
PoC達成目標1	共創教育コミュニティ形成（ターゲット4）	2028
最終目標	共創教育プラットフォームの構築とグリーンジョブコンテンツの創出（ターゲット3）	2032
研究開発課題7「生物資源量の把握と適正利用に向けた知の導出」の目標		年度
中間目標1	環境変化による生態系の現状把握（ターゲット1）	2027
PoC達成目標1	産業の気候変動適応に向けた共有データモデルの構築（ターゲット2）	2029
最終目標	生物資源の適正活用に向けたサプライチェーンとの連動システムの構築（ターゲット3）	2032
研究開発課題8「地域共創社会を育む空間デザイン」の目標		年度
中間目標1	美食地政学に基づくフードスケープの概念定義（ターゲット3）	2027
PoC達成目標1	空間デザインを軸とした、地域共創コミュニティ形成（ターゲット3）	2029
最終目標	美食地政学に基づくフードスケープの創出（ターゲット3）	2032

**拠点名称：美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点**

**代表機関：東北大学**

**プロジェクトリーダー：松八重一代(東北大学大学院環境科学研究科教授)**

研究開発課題	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	最終年度
1. 農林水産資源の適切な管理と環境保全	調査観測・データ蓄積		モニタリング・データ共有基盤の構築	中間目標1	持続可能な水産資源管理方法の確立	PoC達成目標		生態系アプローチによる沿岸環境管理の実現		最終目標
2. 栄養塩類の適切な管理・ライフサイクル環境評価		データ蓄積・分析	地域内栄養塩フロー推計	中間目標1	影響把握	中間目標2	栄養塩フロー適正管理支援モデル構築	PoC達成目標	栄養塩フローの適正管理支援事業創出	最終目標
3. 地理的環境認証・スタンディング	評価指標概要検討		評価指標設計	中間目標1		評価制度の試行	PoC達成目標	認証制度の実装と地域内自走		最終目標
4. 美食地政学に基づくビジネス・サプライチェーン	事例調査		サービスモデル検討	中間目標1		ビジネスモデル創出	PoC達成目標	サプライチェーンの確立		最終目標
5. 消費者・生産者の行動変容	事例調査・アプローチ手法実証・確立		中間目標1			PoC達成目標		価値観の転換・変容評価		最終目標
6. キャリア教育・グリーンジョブコンテンツの創出	事例調査・過去データ分析		グリーンジョブコンテンツ抽出	中間目標1				教育プラットフォームモデル構築 グリーンジョブコンテンツの創出		最終目標
7. 生物資源量の把握と適正利用に向けた知の導出	データ蓄積		現状把握・データ蓄積		分析・影響把握	中間目標1	気候変動適応に向けた共有データモデル構築	PoC達成目標	サプライチェーン連動	最終目標
8. 地域共創社会を育む空間デザイン	データ蓄積		美食地政学フードスペース概念定義	中間目標1			PoC達成目標	美食地政学に基づくフードスペースの創出		最終目標
										地域共創コミュニティ形成

ターゲット1の実現

ターゲット2の実現

ターゲット3の実現

ターゲット4の実現